

牧野(淀川上流)探鳥会 2014年12月度

2014.12.7(第1日曜日) 9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部
担当 南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩
平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)



1. 第一級の寒波通過中

12月に入って急激な寒波が押し寄せてきました。雪が無と嘆いていたスキー場もスタートできたようです。山地に雪が降ると餌が取りにくくなるので、雪のない平野部に冬の小鳥が多くなると、喜んでいるのは雪のない平野部のバードウォッチャー、淀川河川敷に冬鳥が多くなっている筈なので、今日の探鳥会を期待しています。

左の写真は昨年12月、洪水影響で上流側・橋本へ歩きましたが、その時、探鳥会で出会ったオオコノハズク(残念ながら死体)です。

20131201 オオコノハズク(斎藤博さん)

2. 先月(14年11月)は小雨でも鳥多し

冬鳥のシーズン、資料で今月の鳥としてジョウビタキがスタートから終了まで切れ目なしに出た上、アオジ・シロハラ・ツグミ・アトリ・イカルなど小鳥が多く、水辺の鳥もカンムリカイツブリ・マガモ・コガモ・ホシハジロや、1羽のみであるがクサシギも出てくれた。一方で冷え込みがなく春を感じたのか、ウグイスの法華経を何カ所かで聞いた。中洲に休んでいてカヌーに驚いて上空を飛びまわるカワウの大群、コース両側の林から騒々しいほどのヒヨドリなど、個体数が多く、種数も冬近しの41種となった。雨予報でサイクリン車の通行が少なく、小雨にとどまったこともありゆっくり鳥を見ることができました。

3. 今月の鳥 ツグミ

・大阪近郊に最もポピュラーな冬鳥: ツグミは冬の間、住宅地のせまい空き地などで普通に見ることができた鳥でしたが、最近では家の周りで見ることが少なくなっているのが残念です。東西南北に長い日本列島ですので、日本のどこで越冬するかが影響するし、繁殖地シベリアでの繁殖条件(気象状況・環境変化)なども影響しているかもしれません。

・焼き鳥に: 終戦直後のひもじい思いをしたころ、ツグミは貴重な、そして美味しいタンパク源として、かすみ網で一網打尽にされていました。その数は数100万羽ともいわれ、捕獲されたあと、都会の飲み屋さんで直行していたようです。

今はかすみ網での捕獲が完全に禁止されましたので、最近のツグミ減少は密猟の影響ではないと思いますが、少数の密猟は続いている可能性があります。【遠藤公男著:ツグミたちの荒野(1973年)講談社】

・ツグミの♂♀: 鳥を見始めたばかりの頃、冬の間どこにでもいたので、ツグミを見ても「なんだツグミか」と言うことがありました。その後1995年、1997年につぐみが激減した年があり、それからはツグミを愛おしく思うようになりました。万博公園で長くリーダーをして下さった故塩田猛さんから、鳥の♂♀の違いや年齢識別の説明を受けていましたが、最近の写真図鑑にはツグミの♂♀は記載されるようになりました。私は長らく門前の小僧でしたが、結局身につかず、上の写真の年齢・雌雄を断定できないのが残念です。



20131201 ツグミ(堤 潤さん)

4. 自転車に気をつけて

牧野探鳥会は鳥が多いけど危険と隣り合わせ、気をつけていただきたいことは、「自転車から自分を守る」ことです。先月は雨模様で自転車は少なかったのですが、今日はお天気なので多そうです。左は9月7日定例会での光景です。河川敷の緊急車道では十分注意をお願いします。



5. 次回1月4日(第1日曜)

来月はもうお正月です。お雑煮・お屠蘇でふくらんだお腹周りを元に戻すためにも、探鳥会に参加しませんか。川べりには冷たい風が吹きますので、ポケットカイロなど防寒対策を充分にしてください。

集合: 9:00 京阪牧野駅 解散: 14:00 頃 京阪枚方市駅近く

